東京グローバルビジネス専門学校

2023 年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京グローバルビジネス専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像等が定められているか		4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか		3
理念・目的は、社会のニーズ等に対応し適宜見直されているか		4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか		4

①課題

当該年度より新たに整備された理念等のもと、教育や学生支援を行ってきた。常に、全教職員で共通の認識を持てるよう、それぞれの机上にその経営理念を置き日々確認をしている。また同時に、朝礼や研修、定期的な教員全体ミーティングで、その理念に触れてきたが、現段階では、それらを具現化する手法を持ち合わせていないので、引き続き、更なる理念浸透を目指すとともに、実現に向けた『行動指標』も整備したい。

②改善方法

専任教職員に対しては、理念の浸透施策を施してきた一方で、兼任の教職員や学生への浸透機会を創出することができなかった。理念を意識した際の教職員の日々の言動をデータとして蓄積しているので、そこから『行動指標』を整備したい。また、当校に関する全ての方々に当校の理念をご理解いただけるよう、これからは、新たな施策も打っていきたい。

③特記事項

公式ホームページ等で理念等を公開するとともに、教職員の選考を受ける方々や、進学前の教育機関関係者、入学予定者やその保護者にも、学校の方針を理解していただくために更に広く周知していきたいと考える。

2. 学校運営

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか		4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか		4
意思決定のシステムは確立されているか		3
人事処遇に関する制度は整備されているか		4
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか		4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか		3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか		4

①課題

組織としての基礎体力向上のため、組織図の刷新を行い、新しい組織案で学校の運営を行った。業務的な側面而言えば、上手く回っている一方で、リーダーが責任を持ち過ぎるあまり、業務や情報を抱え込んでしまう状況も散見された。

②改善方法

チームメンバーは勿論、他のチームにも情報が行き届くよう、効率的に情報共有をするための施策や声かけを行いたい。当校の専任教職員は、みな中途採用者であるが故、自立した業務遂行ができているが、それぞれのバックグラウンドの違いもあり、情報の共有範囲、共有方法、業務の配分方法が異なっているので、模範的な手法を確立させたい。

③特記事項

コンプライアンス関係の更なる強化を図るため、役職者と議論を重ね、新たな施策の運用を開始する予定。まだまだ開校をして年月は浅いが、学園や学校だけではなく、地域社会へも目を向けて、法人として求められていることを確実に実施していきたい。

3. 教育活動

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか		4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか		4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか		4
授業評価を実施しているか		4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか		4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか		4
資格（免許）の指導体制は整っているか		4
資格・要件を満たした教員を確保しているか		4
研修会等教員の資質向上への取り組みを行っているか		4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか		3
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか		4

①課題

教員の知識や技術向上の場をより広く提供したいと考える。資格や要件を満たした教職員の採用は行っているが、入職後は、個々の経験値やスキルを尊重し、そのブラッシュアップをする機会の提供が積極的に行えていない。当該年度は、専任教職員を積極的に外部の研修会等へ送り出し、その学びを他の教職員の共有の上、業務上でも還元をしていただけた。この取り組みは継続したい。

②改善方法

意欲的に更なる向上を志す者、そして学校運営の改善を図るために実施している学生へのアンケートの結果、学生の満足度が高いとは言いきれない教職員に対し、知識や技術向上のための機会を提供したいと考える。研修、自己学習、その他の手法等、現状にマッチするやり方を精査して、導入を検討したい。刷新した理念のもと、人財育成の仕組みと併せて構築をしていく予定。

③特記事項

学生に向け、学習知識の定着を目的としたアプリケーションを導入している。授業時間外にも資格取得等を目指した自己学習ができる体制を整えている。導入年度は、上手く活用し、その成果も表れていたと実感をしているが、当該年度は、その取り組みに注力しきれなかった。この反省点を活かし、しっかりと活用できる仕組みを構築したい。

4. 学習成果

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか		4
資格・免許の合格率の向上が図られているか		3
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか		3

①課題

当該年度も、卒業生の社会的評価を体系的に把握する術を持ち合わせていない点を課題として認識している。当然のことながら、年々卒業生数が増えてきているので、早期のうち、卒業生の現状や社会的評価を確認する方法を整備したい。

②改善方法

卒業生や卒業生の進路先と効率的に関係を保ち、卒業生の評価を確認できる体系的な手法の確立を試みたい。卒業生の情報を集約する際、個別に連絡をすることは現実的にも困難な側面があることを承知しているので、効率的な施策を考える必要性を実感している。卒業生との連携強化を図ることを目的に、新規チームを発足したので、本格的に当件の強化を図りたい。

③特記事項

昨年度に引き続き、資格取得を促進させるような課外授業を実施した。現在は、必要最低限の資格を保持していない者を対象としているが、学習意欲が高く、より学習をしたいという希望者がいるのであれば、その要望ややる気にも応えたく、更なる支援体制の構築を目指したい。学修の成果もあってか、就職率は引き続き高い水準を維持できている。

5. 学生支援

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか		4
退学率の低減が図られているか		2
学生相談に関する体制を整備しているか		3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか		4
学生の生活環境への支援は行われているか		4
課外活動に対する支援体制は整備されているか		3
保護者と適切に連携しているか		3
卒業生への支援体制はあるか		4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		—

①課題

開校以来、退学率を抑止する効果的かつ具体的な取り組みはなく、教職員の定期的な学生への声掛けや面談により、学生の状況を把握し、フォローするにとどまっていた。当該年度はクラス担任の枠をこえて、学年責任者や教学部門の責任者の面談も導入したが、生憎、状況の好転は見られなかった。

②改善方法

より強固な退学抑止策を施したい。学園のミッション等にも『学生の意欲』の維持向上を意識した内容や『寄り添い伴走すること』を重視する内容を明記しているので、その実現も兼ね、退学率の抑制に繋がるような仕掛けを施したい。ちからで抑えることなく、この学校にいたいという学生のモチベーションに繋がられるような強みを見つけ出し、活用をしていきたい。

③特記事項

学修支援、就職支援、生活支援、卒業生支援等、現在は独立している支援体制の横の繋がりを更に強め、学校全体で学生をサポートしているという姿勢を強く出したい。それぞれの教職員に、あたたかな心持ちや学生を応援したいという強い思いがあることは日々感じることができているので、それを体現することが当校の差別化や強みにも繋がっていくことを感じている。

6. 教育環境

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか		4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか		2

①課題

当該年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を意識しながら、多くの校外活動を実施できた。一生に一度の学生生活が実り多い時間となり、成長の機会となるように、感染拡大防止の観点を持ちながら、バランス良く実施できたように思われる。コロナ禍での行事实施は、様々なことに配慮が必要となるので、判断が難しく、その決断に一定の時間を要した。このような意思決定のタイミングや決断のフローは持ち合わせておくべきであると実感をした。

②改善方法

日常の枠組みの中で発生するトラブルや問題に対しては、意思決定フローや判断基準が明確にあるものの、新型コロナウイルス絡みの学校運営に係る判断等については、これまでに直面したことのない問題であるが故、判断基準やそのフローに不足があることに気が付けた。役職者以外にも、各業務のリーダー等の判断力を向上していけるよう、人材育成にも尽力したい。

③特記事項

学生のインターンシップ等の機会が損なわれることがないように、学生保険の整備をし、運用を開始できる段階となった。その他、施設、備品面においても学生の学修機会の損失がないように、細かなアップデートを実施してきた。学生のことを第一に考えた取り組みはできてきたように思われる。一方、防災や安全管理に対する取り組みは、これから更なる強化をする必要性を感じている。

7. 学生募集と受入れ

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか		4
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		4
入学選考基準は明確になっているか		4
入学選考は、適性に行われているか		4
学納金は、妥当な金額設定になっているか		4

①課題

新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着きつつあったものの、時代の流れか、対面型のオープンキャンパスへの参加者と、オンラインの参加者が混合していた1年だった。開校後の歴史の中で、対面式のオープンキャンパスの実施ノウハウは確立できていたが、オンライン実施においてもより強化をはかるための可能性を探りたい。

②改善方法

新型コロナウイルス感染症が収束すれば対面型のオープンキャンパスへの参加者数は改善されると推察しているが、いつ何時、同じような局面を迎えるかも分からないので、対面式の楽しさが伝わるようなオンラインでのプログラムも構築したい。またその手法は、遠方に在住している学生の募集にも生きてくるように思われる。

③特記事項

オープンキャンパスはもちろん、入学試験やプレスクールも時世に合わせ、オンライン等で実施はできた。その他、新型コロナウイルスの影響により入国が制限されていたことにより、全体的に少なかった留学生の募集を強化するため、新しい入試特典等も考案できた。

8. 財務

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか		4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか		4
財務情報開示の体制は整備されているか		4

①課題

少子化が進む時代の中、学生募集は年々厳しさが増しているが、財務状況は概ね健全である。家庭年収がそもそも低い家庭の学生や経済的に急変してしまった家庭の学生が、授業料や教材費を支払えないケースも微増しているように感じられる。安定した財務基盤を固めるために、その支援も急務であると実感している。

②改善方法

授業料収入の減少は、退学者の増加が大きく影響してくる。退学理由は様々であるが、より迅速な対応を心掛けることで、退学にまで至らないようにすることが重要である。また、当校は高等教育の修学支援新制度の対象校に認定されているので、この制度も積極的に広報することで財務基盤の安定への一助にしたい。

③特記事項

寄付行為に基づき、定期的な予算検討や決算説明のための理事会を開催し、監事の方々に財務状況の確認をお願いしている。数年前より、新しい会計事務所と契約し、より精度高く監査していただく体制を整備した。

9. 法令等の遵守

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか		4
個人情報保護に関する対策が取られているか		4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価結果を公表しているか		4

①課題

現状、特筆すべき課題はないと推察している。

②改善方法 特になし

③特記事項

弁護士と顧問契約を結び、様々な相談に対し迅速に対応をしていただける体制を整えている。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		2
国際交流に取り組んでいるか		3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか		3

①課題

学校の教育資源、そして留学生と日本人が混在しているとう特色を活かし、より創造的な社会貢献、地域貢献の可能性を探る必要性があるように感じられる。

②改善方法

当校と特色が類似している学校がどのように、地域貢献、社会貢献を行っているのか、まずは、事例の学習を実施すべきと考える。その上で、周辺環境等とマッチする施策を行いたい。

③特記事項

日本は比較的、海外よりもボランティアについてハードルが高いと感じている者が多いと言われている。もしかすると、当校に在籍する留学生の方が、母国ではより身近にボランティアという言葉があったようにも思われる。まずは我々教職員が、学生とともに、ボランティアについて話し、学習を深め、その会話をきっかけに、学生と教員が一緒になって貢献的な取り組みに携われればと感じている。